

平成31年度 公益財団法人こころすこやか財団 事業報告書
～目次～

◆公益財団法人 こころすこやか財団の運営
理事会・評議員会の開催

◆公益事業1：障害者・高齢者・認知症者が安心して暮らせる地域づくり事業

(1) 障害者・高齢者・認知症者を支援する事業

- 一般相談支援事業/地域活動支援センター I 型事業/指定地域相談支援事業
 - 地域生活支援センター青明舎
- 指定計画相談支援事業
 - 特定相談支援事業所青明舎
- 障害者就業・生活支援センター事業（雇用安定等事業）/青森県障害者就業・生活支援事業
 - 障害者就業・生活支援センターみさわ
- 指定共同生活援助事業
 - こころすこやか財団グループホーム あおば・あおめ・あおぞら・あおみ
 - グループホーム青風荘
- 指定自立訓練（生活訓練）事業/宿泊型自立訓練事業
 - 障害者生活訓練施設青山荘
- 指定障害者就労移行支援事業（未実施）
 - 事業所名未定
- 指定（介護予防）認知症対応型通所介護事業
 - 結び家
- 指定居宅介護支援事業
 - ケアプランセンターまゆすい
- 認知症事例検討会
- 若年性認知症総合支援事業
 - 青森県若年性認知症総合支援センター
- メンタルヘルス事業
- 若年性認知症総合支援事業
- メンタルヘルス事業

(2) 障害者・高齢者・認知症者に関する普及啓発事業

- 障害者の作品展示
- 障害者・高齢者・認知症者の福祉に関する研修会、講演会、イベントの開催
- 高齢者・認知症者を対象とした介護予防等に関する講習会、健康教室等の開催
- 法人後見の実施及び成年後見制度利用に関する支援
- 県市町村その他関係機関に対するもの忘れ検診機器の貸し出しと講師派遣
- 関係団体と連携した認知症者の屋外徘徊を想定した模擬訓練の実施

◆収益事業1

自動販売機等の設置及び不動産貸付事業及び給食サービス事業

◆理事会・評議員会

報告担当者 代表理事 松倉典子

【報告概要】

精神疾患及び精神障害の予防並びに治療に係る研究に関する活動と、障害者や高齢者の社会生活全般に関する支援活動を行うとともに、心の健康を普遍化して偏見をなくした心豊かな社会づくりを目指すため、適正な法人の運営を行った。

【報告項目】

- ①理事会の開催
- ②定時評議員会・臨時評議員会の開催

【報告内容】

①理事会の開催

理事会を书面決裁を含め4回開催した

	開催日	議案
第1回理事会	6月4日	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成30年度 事業報告について承認を受ける件 ● 平成30年度 決算報告について承認を受ける件 ● 平成31年度 定時評議員会の招集について承認を受ける件
第2回理事会	7月22日	<ul style="list-style-type: none"> ● すこやか会館2階大会議室冷暖房機器設置工事について承認を受ける件（郵送による书面決裁）
第3回理事会	1月10日	<ul style="list-style-type: none"> ● 普及啓発事業の補正予算について平成31年度事業計画（案）について承認を受ける件 ● 平成31年度収支予算（案）について承認を受ける件
第4回理事会	3月11日	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和2年度 事業計画（案）について承認を受ける件 ● 令和2年度 収支予算案について承認を受ける件 ● 平成31年度 補正予算（案）について承認を受ける件 ● 就業規則変更事項について承認を受ける件 ● グループホームあおば(仮)建設及び建設費用積立金について承認を受ける件 ● 令和2年度 資金調達及び設備投資の見込みについて承認を受ける件 ● 令和2年度 役員等関連取引について ● 平成31年度 第2回臨時評議員会の招集について承認を受ける件

②定時評議員会・臨時評議員会の開催

定時評議員会の他、臨時評議員会を2回開催した

	開催日	議案
定時評議員会	6月21日	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成30年度 事業報告について意見具申と承認を受ける件 ● 平成30年度 決算報告について意見具申と承認を受ける件
第1回臨時評議員会	3月26日	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和2年度事業計画（案）について意見具申と承認を受ける件 ● 令和2年度収支予算（案）について意見具申と承認を受ける件 ● 令和2年度補正予算（案）について承認を受ける件 ● 令和2年度 資金調達及び設備投資の見込みについて承認を受ける件

◆地域生活支援センター青明舎

報告担当者 センター長 森 富茂子

【報告概要】

障害者及び家族からの来所相談・電話相談・訪問相談を行い、生活全般・医療・日常生活上の悩み事等へ、必要な情報の提供及び助言、解決を講じ、関わる機関との連絡調整やケース検討を行うことで解決に努めた。また、他事業所に情報提供や助言を行う機会もあり、八戸市においては、障がい者相談支援事業者連絡会議の運営に携わり、委託を受ける事業所としての役割を担った。医療・福祉機関、地域住民、公的機関からの相談をされることも多く、各障害特性別の対応を心掛けた。また、在宅の障害者の社会参加を目指し、当センター活動室において、創作的活動の機会の提供、地域社会との交流の促進を図り、障害者・ボランティア・家族・地域住民が気軽に立ち寄れる環境作りを行った。そしてこれらを実施することで、障害者がより円滑に地域生活を送ることができるように支援することを目的として事業を行った。

【報告項目】

- ①相談支援事業
- ②地域活動支援センターⅠ型事業
- ③指定特定相談支援事業（サービス利用支援・継続利用支援）
- ④指定一般相談支援事業（令和1年11月1日より休止）

【報告内容】

①相談支援事業

1) 相談支援事業

訪問、来所相談、電話相談にて以下の相談に応じた。

- ・福祉サービスの利用援助に関する事
- ・社会資源を活用するための支援に関する事
- ・社会生活力を高めるための支援に関する事
- ・ピアカウンセリングに関する事
- ・権利擁護のために必要な援助に関する事
- ・専門機関の紹介に関する事

必要に応じて、同行や関係機関との連絡調整、個別ケア会議を実施した。

毎月実績報告書を提出し、委託市町村に住む障がい者の状況把握に役立て連携した。障害者が障害福祉サービスを利用するようになった事等から、相談できる機会や機関が増え、当事業の来所相談件数は減少していると思われる。それに比例して、登録者の情報共有や支援方法の確認など、係る機関で話し合う個別ケア会議参加件数が増えている。

公益事業1 障害者・高齢者・認知症者が安心して暮らさせる地域づくり事業
 (1) 障害者・高齢者・認知症者を支援する事業

月	行動報告	
随時	支援内容	年間延べ利用件数
	訪問	377件
	来所相談	1,961件
	同行	56件
	電話相談	1,455件
	関係機関との連絡調整	1,498件
	個別ケア会議	15件
訪問、来所、同行、電話相談等の対応		

2) 相談支援機能強化事業

相談支援機能の強化を図るため、一般的な相談支援事業に加え、相談支援事業が適切かつ円滑に実施されるよう、相談支援事業者に対する専門的指導、助言を行った。新郷村では出張相談会を開き、青明舎まで来所が難しい地域の方の相談を受け付ける機会を設けた。

月	行動報告
随時	必要に応じ、相談支援事業者に対する専門的指導、助言を行う。
新郷村 障がい者 出張相談会	6月、9月、12月実施
新郷村障害者 地域自立支援 協議会	新型コロナウイルス感染防止のため会議開催は中止だったが、新年度の障がい者出張相談の実施体制見直しについて書面で確認している。

3) 地域自立支援協議会（個別ケア会議）への参加

月	行動報告
5月31日	八戸市障がい者相談支援事業者連絡会議事務局会議
8月6日 11月18日 1月21日	八戸市障がい者相談支援事業者連絡会議

4) 入居等支援事業

賃貸契約による一般住居を希望しているが保証人がいない等の理由により入居が困難な方、各市町村が運営する住宅入居者に、必要な調整等の支援を行った。

月	行動報告
随時	関係機関との連絡・調整、地域生活の支援、緊急時の対応・支援 ※登録者：9名 ※年間延べ利用件数：96件

利用件数が前年度比23件減となっている。長期間入院していて訪問できなかった登録者があったこと、居住年数が長期になり安定して居住できる登録者と、訪問頻度について相談したことが要因として考えられる。

5) 成年後見制度利用支援事業

成年後見制度の利用が認められる知的障害者又は精神障害者に対し、申立て等について、各市町村と連携を取りながら支援する。今年度は、成年後見制度について相談

したいと希望した障害者に、八戸市成年後見センターに同行支援を実施した。

②地域活動支援センター I 型事業

1) プログラム活動の企画・運営

活動室を開放し、社会生活に必要なスキルの維持・向上を図るプログラムを実施。

月	行動報告
4月	年間活動スケジュールの作成
毎月	プログラム活動月間予定表の作成
通年	活動室の開放、メンテナンス

2) 余暇活動（行事、イベント）の企画・運営

生活のしづらさを感じやすい障害者や、引きこもり等、既存の社会資源を利用できない層の相談窓口となり、障害者と地域社会の交流を図った。

月	行動報告	参加数
4月	活動室年間スケジュールの作成	
5月	牡丹祭	5名
6月	種差海岸散策	3名
7月	すこやか祭り(本部)	18名
8月	思い出小物作り	4名
9月	棒パン作り	7名
10月	南部町達者村ぶどう狩り	9名
11月	カラオケ大会	9名
12月	もちつき大会(本部)	17名
1月	新春鍋会	6名
2月	お好み焼き会	6名
3月	外出企画	中止

3) 障害者サポーター養成、障害に対する理解促進を図る為の普及啓発活動

医療・福祉及び地域の社会的基盤との連携強化のための調整、障害に対する理解促進を図る為の普及啓発活動の事業を実施した。

障害者サポーター養成講座は、光星高等学校専攻科・八戸学院大学で実施し、併せて24名が参加。障害・疾病の理解や障害者支援に従事するスタッフの生の声を聴き、障害者理解や福祉従事者を目指す心構え等を学ぶ機会とした。

月	行動報告
4月	年間活動スケジュールの作成、障害者サポーター登録、サポーターデータ管理表作成
8月23日	光星高等学校専攻科にてサポーター養成講座実施。参加者9名
2月13日	八戸学院大学にてサポーター養成講座実施。参加者15名

4) ライフサポート

日常生活の支援、日常的な相談への対応、日常生活の質の向上と問題解決のための援助及び情報提供を実施。

・入浴サービスは、他相談支援事業所から入浴サービス利用希望の利用者を紹介されたこと、通所先を止めたことなどで入浴機会を失くした方が利用され、利用件数が51件増加している。

公益事業1 障害者・高齢者・認知症者が安心して暮らさせる地域づくり事業
 (1) 障害者・高齢者・認知症者を支援する事業

月	行動報告	
4月	定期訪問者 訪問スケジュール作成	
随時	訪問、来所、同行、電話相談等の対応、定期訪問	
通年	入浴、洗濯、インターネット、食事作り、緊急時対応 (オンコール)	
	支援内容	年間延べ利用件数
	入浴	261件
	洗濯	54件
	インターネット	7件
	食事作り	53件
夜間電話	818件	

夜間電話件数が、前年度比 443 件増になっている。12 月から電話で服薬確認を行い、確実に服薬する習慣を身に着ける支援を実施していることが要因としてあげられる。

③指定特定相談支援事業

サービス利用計画の作成、事業者との連絡調整及びサービス等の利用状況の検証を行い、利用者が安心して障害福祉サービスが受けられ、目標に近づくよう支援した。

月	行動報告
随時	相談支援・サービス利用計画作成・サービス担当者会議実施・モニタリング実施・作成料請求業務

登録者数・実績表

月	新規(利用支援)	継続(継続支援)	新規登録者数	登録解除者数
4月	5名	15名	1名	1名
5月	5名	22名	0名	2名
6月	8名	16名	0名	0名
7月	6名	17名	0名	1名
8月	10名	13名	2名	1名
9月	4名	20名	0名	1名
10月	6名	15名	2名	0名
11月	4名	17名	4名	3名
12月	4名	13名	1名	0名
1月	4名	17名	0名	0名
2月	5名	17名	0名	3名
3月	8名	17名	3名	0名
合計	69名	199名	13名	12名

④指定一般相談支援事業

育児休暇・出産に伴う休暇を取得する職員が2名あり、365日・24時間で支援する体制を維持することが難しくなったことが理由で、令和元年11月1日より事業休止としている。

1) 地域移行支援

障害者支援施設等に入所している方や精神科病院に入院している方に対して、住居の確

保その他の地域における生活に移行するための活動に関する相談に応じた。
 今年度の登録者は1名で、精神科病院から退院するために自宅外泊等を実施した。

月	行動報告
随時	<ul style="list-style-type: none"> ・住居確保その他の地域生活に移行するための支援に関する相談 ・地域生活への移行のための外出時の同行 ・体験宿泊 ・地域移行支援計画の作成 ※登録者：2名 ※年間延べ利用件数：16件

2) 地域定着支援

居宅において単身等の状況において生活する障害者等に対して、当該障害者等との常時の連絡体制を確保し、障害の特性に起因して生じた緊急の事態等において相談に応じた。
 31年度登録者は1名。

地域生活支援センター青明舎 市町村別登録者数

令和2年度3月31日現在

	身体		知的		精神		発達 他		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
八戸市	0	2	6	3	31	40	0	2	37	47
	2		9		71		2		84	
おいらせ町	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1
	0		0		2		0		2	
南部町	0	0	0	0	6	0	0	0	6	0
	0		0		6		0		6	
五戸町	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
	0		0		1		0		1	
階上町	1	0	0	0	2	0	0	0	3	0
	1		0		2		0		3	
田子町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0		0		0		0		0	
新郷村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0		0		0		0		0	
合計	1	2	6	3	41	41	0	2	48	48
	3		9		82		2		96	

◆障害者就業・生活支援センターみさわ

報告担当者 センター長 坂下優子

【報告概要】

就職を希望する障害者、職場不適應により離職した障害者や離職のおそれがある在職中の障害者に対し、障害者就業・生活支援センターにおいて、就業及びこれに伴う日常生活、社会生活上の支援を行うことにより、障害者の職業生活における自立を図ることを目的とした。また、生活支援担当職員が支援対象者の家庭等や職場を訪問し、支援対象障害者の生活上の相談等に応じ、就業及びこれに伴う日常生活又は社会生活に必要な支援を行うことにより、障害者の就労継続を図ることを目的として運営した。

【報告項目】

- ① 雇用安定等事業
- ② 生活支援等事業

【報告内容】

① 雇用安定事業

1) 障害者の就業支援

就職に向けた準備支援（職業準備訓練、職場実習のあっせん）、求職活動の支援、職場定着支援、事業所に対する障害者の障害特性を踏まえた雇用管理に関する助言、関係機関との連携、調整を行った。

月	行動報告
通年	職場実習場所の開拓、確保、職場実習の実施、事業所への説明、利用者への説明、短期職場実習制度の利用、求職活動支援、職場定着支援

2) 障害者の就業支援からみる生活支援 ※②生活支援等事業と連動

生活習慣の形成、健康管理、金銭管理等の日常生活の自己管理に関する助言、地域生活、生活設計に関する助言、関係機関との連携、調整を行った。

月	行動報告
通年	家庭・職場・実習先への訪問巡回、職場定着支援、利用登録の意志確認、在職者交流会

3) 目標件数の達成状況

*支援対象障害者数は年度末に登録希望確認を実施し、47人の取消希望あり。次年度の開始時は307人でスタートすることとなる。

目標件数設定項目	平成31年度目標値	平成31年度達成値	達成率
支援対象障害者数(人)	310人	354人	114%
職業準備訓練及び職場実習のあっせん件数(件)	23件	23件	100%
就職件数(件)	35件	27件	77%

4) 各関係機関との連携、情報交換、報告

事業が円滑かつ効果的に行われるように関係機関と連絡を密にし、連携体制を構築した。

*2月後半以降の各行事、会議等はコロナウイルスの影響で多数中止となっている。

公益事業1 障害者・高齢者・認知症者が安心して暮らさせる地域づくり事業
 (1) 障害者・高齢者・認知症者を支援する事業

月	行動報告
4月26日	第1回障害者就業・生活支援センター連絡協議会参加
6月14日	三沢地区障がい者就労支援連絡会総会参加
6月20日	第1回障害者就業・生活支援センターみさわ事業連絡会議実施
6月21日	センターみさわ登録説明(七戸養護学校)
6月23日	第1回在職者交流会実施
7月4日	上北地域自立相談支援ネットワーク会議
7月16日	発達障害者雇用支援連絡協議会
7月19日	進路講話会(青森第二高等養護学校)参加
7月24日	上北地区特別支援連携協議会参加
7月24日～	四者面談(七戸養護学校)参加
7月25日～	四者面談(青森第二高等養護学校)参加
8月23日	第2回障害者就業・生活支援センター連絡協議会参加
9月3日	企業座談会
9月21日	第2回在職者交流会実施
10月10日	障害者就職面接会後援、参加
11月5日	ハローワーク定例会
11月23日	第3回在職者交流会実施
11月26日	第2回障害者就業・生活支援センターみさわ事業連絡会議実施
12月13日	第3回障害者就業・生活支援センター連絡協議会参加
12月18日	上十三地区障害者雇用連絡会議
1月16日	上北地区農福連携会議
2月18日～	ステップアップ講座(5日間)
2月14日	第4回障害者就業・生活支援センター連絡協議会参加
2月22日	第4回在職者交流会実施
3月随時	移行支援会議(七戸養護学校、青森第二高等養護学校、八戸高等支援学校、青森第二養護学校)参加
適宜	県内各障害者就業・生活支援センター事業連絡会議参加 特別支援学校生徒、企業実習の巡回協力実施 ハローワークとのチーム支援会議実施 三沢市障害者計画策定委員会 三沢市共生社会条例策定委員会
毎月	地域自立支援協議会(三沢市)参加

5) 啓発活動

月	行動報告
2月1日	第9回上十三地区障害者就労支援セミナー後援
11月	障害者雇用モデル事例集作成(青森県労政・能力開発課共催)

6) スタッフ教育・人材育成

業務で必要となる情報収集や支援力向上のため、以下の研修、会議に参加

月	行動報告
6月14日	全国就業支援ネットワーク 第21回定例研究・研修会
7月13日	ジョブコーチカンファレンス
11月18、19日	職業リハビリテーション研究・実践発表会
11月27日	北海道・東北ブロック経験交流会議
11月28日	北海道・東北ブロック連絡会

1月31日、2月1日	障害者就業・生活支援事業をより深く考える全国フォーラム
------------	-----------------------------

② 生活支援等事業

1) 日常生活の自己管理に関する指導・助言

月	行動報告
随時	生活習慣の形成や日常生活の自己管理のための助言 健康管理や金銭管理等に関する指導・助言 保健医療機関、生活支援サービス利用の支援を実施

2) 地域生活に関する指導・助言

月	行動報告
随時	住居の確保や年金などの申請に関して助言 活用できる福祉サービスの利用調整を実施 就業後や休日における余暇活動について助言

3) 生活設計に関する指導・助言

月	行動報告
随時	長期的な視野での生活設計等について指導・助言 本人の自己選択・自己決定に関する助言

4) 家族、知人との関係の調整や緊急時の対応等の支援を行った。

5) その他就業及びこれに伴う日常生活又は社会生活に必要な支援を行った。

◆ ころすこやか財団グループホーム

報告担当者 管理者 森 富茂子

【報告概要】

障害者総合支援法に基づく指定障害福祉サービス事業「外部サービス利用型共同生活援助事業」の適切な運営と、利用者が地域において共同して自立した日常生活及び社会生活を営む事ができるよう援助し、障害者の福祉の増進を図った。

【報告項目】

- ① ころすこやか財団グループホームの運営
 「あおぞら（定員：女性7名）」「あおば（定員：男性5名）」「あおめ（定員：男性7名）」
 「あおみ（定員：男性7名）」
 - 1) 個別支援計画の作成及び提供
 - 2) 関係機関との情報共有及び連携
 - 3) 生活の質の向上及び健康の維持
 - 4) 訓練等給付費請求・受領業務
 - 5) 生活費等の出納管理
 - 6) 訓練等給付の支給決定内容の管理
 - 7) 外部サービス利用時の連絡調整
 - 8) 年間利用者状況
 - 9) 利用者情報

【報告内容】

- ① ころすこやか財団グループホームの運営
 - 1) 個別支援計画の作成及び提供
 利用者の意向、適正、障害の特性を踏まえた個別支援計画を作成し提供するとともに、断続的な評価を実施し適切かつ効果的な援助を提供した。

実施月日	実施内容
適宜	アセスメント
適宜	個別支援計画の評価・個別支援計画の作成検討会議
適宜	個別支援計画の作成と同意・提供

- 2) 関係機関との情報共有及び連携
 利用者の意思及び人格を尊重し利用者の立場に立ったサービスの提供と、医療、関係機関、家族との連携、調整を行なった。

実施月日	実施内容
随時	通院の同行、関係機関への同行 家族との連絡、情報交換 サービス担当者会議・ケア会議の実施、参加

- 3) 生活の質の向上及び健康維持
 生活の質の向上と健康維持の為の援助を提供した。
 今年度は利用者様全員に市町村が実施している健康診断を受けてもらい、個人の健康状態の把握に努めた。またかかりつけの精神科主治医に相談しながら、必要な方には再検査等実施している。今年度は実施回数が多く、世話人の同行回数も増えた。効率と必要性を再検討したい。

公益事業 1 障害者・高齢者・認知症者が安心して暮らせる地域づくり事業
 (1) 障害者・高齢者・認知症者を支援する事業

実施月日	実施内容
R1 年 7 月 14 日 R1 年 9 月 29 日	夜間想定通報・避難訓練 日中想定避難訓練
随時	服薬管理・健康管理・生活相談・建物管理・設備管理・ 環境整備・大掃除支援等
R1 年 10 月 10 日 R1 年 10 月 18 日 R1 年 11 月 7 日 R1 年 11 月 14 日 R1 年 11 月 22 日 R1 年 11 月 30 日 R1 年 12 月 12 日 R2 年 2 月 6 日 R2 年 2 月 14 日 R2 年 2 月 21 日	健康診断の実施及び同行、実施医療関係との連絡調整 かかりつけ医への報告、再検査実施及び同行 ①健診実施・同行(3名) ②健診実施・同行(2名) ③健診実施(1名) ④健診実施・同行(4名) ⑤健診実施・同行(6名) ⑥健診実施・同行(1名) ⑦健診実施・同行(1名) ⑧健診実施・同行(2名) ⑨健診実施・同行(1名) ⑩健診実施・同行(1名)
H30 年 10 月 H31 年 3 月	グループホーム便りの発行と郵送
R2 年 2 月 23 日	バス外出・外食会(6名)

- 4) 訓練等給付費請求・受領業務
 サービス費等請求業務及びサービス費等代理受領業務

実施月日	行動計画
毎月	利用料金の徴収 国保連への請求及び代理受領 会計に関する諸記録の整備

- 5) 生活費等の出納管理
 家賃、水光熱費、その他日常に要する費用に関する金銭管理を行った。

実施月日	実施内容
毎月 2 日	利用料金の徴収・返金 会計に関する諸記録の整備

- 6) 訓練等給付の支給決定内容の管理

実施月日	行動計画
随時	訓練給付サービス支給更新手続き 利用者負担上限額更新手続き

- 7) 外部サービス利用時の連絡調整

実施月日	行動計画
随時	個別支援計画に基づいた居宅介護支援事業所への依 頼及び連絡調整 関係機関への情報提供等

8) 年間利用者状況

(利用者数は毎月末現在)

単位：人

月	あおぞら 定員7名(女)			あおば 定員5名(男)			あおめ 4/1~4/30 定員10名(男) 5/1~ 定員7名(男)に 変更			あおみ 定員7名(男)		
	入	退	現在数	入	退	現在数	入	退	現在数	入	退	現在数
H31.4月	0	0	6	0	0	3	0	0	6	0	1	6
R1.5月	0	0	6	0	0	3	0	0	6	0	0	6
6月	0	0	6	0	0	3	0	0	6	0	0	6
7月	1	0	7	0	0	3	0	1	5	0	0	6
8月	0	1	6	0	1	3	0	0	5	0	0	6
9月	0	0	6	0	0	3	0	0	5	0	0	6
10月	0	0	6	0	0	3	0	0	5	0	0	6
11月	0	0	6	0	0	3	0	0	5	0	0	6
12月	0	0	6	1	0	4	1	0	6	0	0	6
R2.1月	0	0	6	0	0	4	0	0	6	0	0	6
2月	0	0	6	0	1	3	0	0	6	0	0	6
3月	0	0	6	0	0	3	0	1	5	0	0	6
延利用者数計	1	1	73	1	1	38	1	2	66	0	1	72

◆グループホーム青風荘

報告担当者 施設長 高橋昭徳

【報告概要】

障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業「介護サービス包括型共同生活援助事業」の適切な運営と、利用者が地域において共同で自立した日常生活または社会生活を営む事ができるよう日常生活上において必要となる援助を行い、生活能力の低下防止と生活の質の向上・自立の促進を図った。

【報告項目】

- ① グループホーム青風荘の運営（定員 20 名）
 - 1) 日常生活上の支援全般、相談、連絡調整
 - 2) 個別支援計画の作成、ケアマネジメントの実施
 - 3) 関係機関との情報共有及び連携
 - 4) 健康管理
 - 5) 非常災害対策
 - 6) 利用者負担金及び生活費等の出納管理
 - 7) 介護給付費請求・受領業務
 - 8) 訓練等給付費の支給決定内容の管理
 - 9) 余暇活動支援
 - 10) 年間利用者状況

【報告内容】

- ① グループホーム青風荘の運営
 - 1) 日常生活上の支援全般、相談、連絡調整

1日を通して日常生活の質の向上・維持の為、利用者の意向を踏まえ、日常生活に必要なサービス（家事・相談・助言等）を24時間体制で提供した。

実施月日	実施内容
通年	夜間における排泄の介助や見守り 入浴・食事等の支援、洗濯及び掃除・買物等の身の回りや家事全般に関する相談や援助 公共機関利用の支援
随時	支援会議の実施

日中活動の場等関係機関との連絡・調整

実施月日	実施内容
毎週・月～金	通所リハビリテーション青陽館との情報共有、及びプログラム参加の支援
随時	ケア会議への参加

2) 個別支援計画の作成・ケアマネジメントの実施
 利用者・家族の現状やニーズなどを把握するためにアセスメント及びモニタリングを実施し、個別支援計画を作成し、それに基づいて適切なサービスを提供した。

実施月日	実施内容
随時（6ヶ月以内）	個別支援計画書の作成及び更新 個別支援計画作成検討会議

3) 関係機関との情報共有及び連携

実施月日	実施内容
適宜	外来受診時における利用者の身体・精神状況の情報提供及び同行支援 家族との連絡・面談及び情報交換 ケア会議への参加

4) 健康管理

定期検診の実施

実施月日	実施内容
朝・夕（毎日）	対象者のバイタル測定
毎月	糖尿病患者対象（1名）～血糖検査
R2年2月	頭部CT検査（17名）
R1年10月	胸部X-P（一般者18名）
R1年8、9月 R2年3月	定期採血（一般セット18名）
R1年10月	インフルエンザ予防接種（18名）
R2年3月	心電図（18名）

5) 非常災害対策

実施月日	実施内容
R1年6月	避難誘導訓練（夜間想定）
R1年11月	避難誘導訓練（夜間想定）
R2年3月	自主避難誘導訓練（夜間想定）
毎月	消防用設備の自主点検
年度末	消防用設備等点検結果報告書・点検記録表・自主点検表の提出

6) 利用者負担金及び生活費等の金銭管理

利用者負担額等の請求・利用料等の受領業務

実施月日	実施内容
毎月	利用料の徴収・返金 会計に関する諸記録の整備

7) 介護給付費請求・受領業務

サービス費等請求業務及びサービス費等法定代理受領業務

実施月日	実施内容
毎月	国保連への請求・受領 会計に関する諸記録の整備

8) 訓練等給付費の支給決定内容の管理

月	行動計画
随時	訓練給付サービス支給量更新手続き 利用者負担上限額更新手続き

9) 余暇活動支援

レクリエーションの実施

利用者が高齢となっており、身体・体力的に遠くまでの外出が困難なため、同じ企画でも荘内グループと外出グループに分けてレクを行っています。

月	行動計画
H31年4月	お花見昼食会（施設内・外出）
R1年5月	昼食会
6月	誕生会
7月	ランチ外出・出前ランチ
8月	納涼会
9月	誕生会
10月	ランチ外出・出前ランチ
11月	誕生会
12月	クリスマス忘年会（施設内）
R2年1月	新年会（施設内）
2月	豆まき・昼食会
3月	ひなまつり・誕生会

10) 年間利用者状況（利用者数は毎月末日現在）

月	各月在所人数			入 所			退 所		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
H31.4月	10	9	19	0	0	0	0	1	1
R1.5月	10	8	18	0	0	0	0	1	1
6月	10	7	17	0	0	0	0	1	1
7月	10	7	17	0	0	0	0	0	0
8月	10	7	17	0	0	0	0	0	0
9月	10	8	18	0	1	1	0	0	0
10月	10	8	18	0	0	0	0	0	0
11月	10	8	18	0	0	0	0	0	0
12月	10	8	18	0	0	0	0	0	0
R2.1月	9	8	17	0	0	0	1	0	1
2月	9	8	17	0	0	0	0	0	0
3月	10	8	18	1	0	1	0	0	0
計	118	94	212	1	1	2	1	3	4
前年度	117	120	237						

◆障害者生活訓練施設 青山荘

報告担当者 管理者 高橋 昭徳

【報告概要】

障害者が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、生活能力の維持・向上を目的に、食事や日常生活全般に関わる必要な生活訓練を行った。また、利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立ったサービスの提供、地域連携に努めた。

【報告項目】

①障害者生活訓練施設青山荘の運営

(通所型生活訓練 定員 20 名 宿泊型生活訓練 定員 20 名)

- 1) 個別支援計画の作成、モニタリングの実施
- 2) 社会生活力を高めるためのプログラムを実施
- 3) 運営に関する会議
- 4) 関係機関との情報共有、及び連携
- 5) 生活の質の向上・維持
- 6) 生活費等の金銭管理
- 7) 訓練等給付費の請求及び受領業務
- 8) 年間利用者状況

【報告内容】

① 障害者生活訓練施設 青山荘の運営

1) 個別支援計画の作成、モニタリングの実施

利用者の置かれている環境及び日常生活全般の状況等を通じて、利用者及びその家族が希望する生活や課題を明らかにし、適切な支援内容の把握に基づき達成目標を設定し、サービス担当者会議を経て個別支援計画を作成した。個別支援計画書作成後、3ヶ月に1回以上定期的に個別支援計画実施状況の把握を行い必要に応じて個別支援計画の変更を行った。

実施月日	実施内容
随時	アセスメントの実施、個別支援計画の作成 モニタリングの実施（3ヶ月に1回以上）、個別支援計画の見直し

2) 社会生活力を高めるためのプログラムを実施

- | | |
|-------------|-----------|
| ◆ 健康管理 | ◆ 食生活 |
| ◆ セルフケア（保清） | ◆ 生活リズム |
| ◆ 安全・危機管理 | ◆ 金銭管理 |
| ◆ すまい | ◆ 掃除・整理 |
| ◆ 買い物 | ◆ 服装 |
| ◆ コミュニケーション | ◆ 外出・余暇支援 |
| ◆ 運動 | ◆ 病気の理解 |

実施月日	実施内容
毎月20日	翌月のプログラム予定表を作成
毎日	各利用者に合わせて集団・個別プログラムを実施
H31.4 R1.5、6、7月 R2.1月	公共交通機関を利用し外出プログラムを実施。 花見・外食・イオン・三社大祭・初詣

3) 運営に関する会議

利用者に関する情報の共有、連絡事項、支援内容の見直しなどについて会議内で検討した。

実施月日	実施内容
毎月1回	利用者に関する情報・連絡事項・支援内容の見直し等について所内会議を行った

4) 関係機関との情報共有、及び連携

利用者の意志及び人格を尊重し利用者の立場に立ったサービスの提供、及び医療、関係機関、家族との密接な連携を図った。

実施月日	実施内容
適宜	必要に応じて関係機関・家族への情報提供（家族交流会）、ケア会議の招集、ケア会議への参加

5) 生活の質の向上・維持

実施月日	実施内容
毎月	苦情処理委員会の開催
R1.9月・R2.2月	避難訓練（消防計画・報告書の提出）
適宜	消防用設備の自主点検実施（専門業者に委託） 平成31年度分の消防用設備等点検結果報告書・点検記録表・自主点検票をR2年4月に消防署へ提出

6) 生活費等の金銭管理

利用者・家族の希望に応じて生活費等の金銭管理等を行った。

実施月日	実施内容
適宜	新規利用者へ金銭管理方法を確認 事業所で通帳・印鑑・現金等を預かる際は、預かり証にサインを いただいてから預かった

7) 訓練等給付費の請求及び受領業務

毎月サービス利用費等を国保連へ請求する。また国保連よりサービス利用費の代理受領業務を行った。

実施月日	実施内容
毎月	サービス利用費等を国保連へ請求、代理受領書の発行

8) 年間利用者状況

I. 「宿泊型」(利用者数は毎月末現在)

単位：人

月	各月訓練利用者数 (登録者数)			新規訓練利用者数			訓練修了者数		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
H31.4月	9	4	13	1	0	1	0	0	0
R1.5月	9	4	13	0	0	0	0	0	0
6月	9	4	13	0	0	0	0	1	1
7月	9	3	12	0	0	0	0	0	0
8月	10	3	13	2	0	2	1	0	1
9月	12	3	15	2	0	2	0	0	0
10月	12	3	15	0	0	0	1	0	1
11月	12	3	15	1	0	1	1	0	1
12月	11	3	14	0	0	0	0	0	0
R2.1月	11	3	14	0	0	0	1	0	1
2月	10	3	13	0	0	0	1	0	1
3月	11	4	15	3	1	3	0	0	0
計	125	40	165	9	1	10	5	1	6
年間平均利用数	今年度		13.7						
	前年度		13.5						

II. 「通所型」(利用者数は毎月末現在)

単位：人

月	各月訓練利用者数 (登録者数)			新規訓練利用者			訓練終了者		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
H31.4月	9	4	13	1	0	1	0	0	0
R1.5月	9	4	13	0	0	0	0	0	0
6月	9	4	13	0	0	0	0	1	1
7月	9	3	12	0	0	0	0	0	0
8月	11	3	14	2	0	2	1	0	1
9月	11	3	14	2	0	2	1	0	1
10月	11	3	14	0	0	0	1	0	1
11月	11	3	14	2	0	2	1	0	1
12月	10	3	13	0	0	0	0	0	0
R2.1月	10	3	13	0	0	0	1	0	1
2月	9	3	12	0	0	0	1	0	1
3月	9	4	13	1	1	2	0	0	0
計	118	40	158	8	1	9	6	1	7
年間平均利用数	今年度		13.1						
	前年度		11.8						

◆障害者就労移行支援事業

報告担当者 代表理事 松倉典子

【報告概要】

障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業「就労移行支援事業」において、障害者が自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう、生活能力の維持・向上、また社会経済活動への参加のための就労訓練を行い、社会参加を促進すると共に障害者の自立した生活を助長するため障害者就労移行支援事業所の立ち上げに関する検討を行う予定としていたが、未検討となった。

【報告項目】

- ① 障害者就労移行支援事業所の立ち上げ準備

【報告内容】

- ① 障害者就労移行支援事業所の立ち上げ準備
需要が現状では見込まれないため、事業立ち上げは未検討となった。

◆指定（介護予防）認知症対応型通所介護事業 結び家

報告担当者 管理者 金澤一美

【報告概要】

認知症の利用者を対象にした専門的なケアを提供し、利用者が可能な限り居宅で自立した日常生活を送ることができるよう、食事や入浴などの日常生活上の支援や、生活機能向上のための機能訓練や口腔機能向上サービスなどを日帰り提供した。また自宅にこもりがちな利用者の社会的孤立感の解消や心身機能の維持回復だけでなく、家族の介護の負担軽減などを目的とし事業に取り組んだ。更に若年性認知症者の支援にも力を入れ、若年性認知症サポートセンターゆえみとして、若年性認知症者及びその家族を対象としたサロン活動を実施し、当事者の仲間作りや悩み相談、そして家族の不安や悩み等の解消及び情報交換による心理的負担を軽減することを目的として事業を行った。

【報告項目】

- ① （介護予防）認知症対応型通所介護事業の運営
- ② 若年性認知症サポートセンターゆえみ事業
- ③ スタッフ教育

【報告内容】

- ①（介護予防）認知症対応型通所介護事業の運営

(1) 通所支援事業

1) 日常生活とのつながりを意識した認知症者の自立につながるサービスを提供した。

サービス提供日：月曜日～金曜日（年末年始は除く）1日定員：12名

月	利用者延人数	平均利用者数 (1日)	利用率 (月)	稼働率	登録者率	登録者数
H31年4月	206	9.4	78.03%	91.56%	85.23%	25名
R1年5月	219	9.5	79.35%	90.87%	87.32%	26名
6月	195	9.8	81.25%	92.42%	87.92%	28名
7月	215	9.3	77.90%	93.89%	82.97%	26名
8月	207	9.4	78.41%	88.84%	88.26%	27名
9月	201	9.6	79.76%	88.16%	90.48%	26名
10月	204	9.3	77.27%	85.71%	90.15%	25名
11月	197	9.4	78.17%	91.20%	85.71%	25名
12月	197	9.4	78.17%	92.92%	84.13%	26名
R2年1月	182	9.6	79.82%	94.79%	84.21%	26名
2月	168	8.4	70.00%	90.81%	77.08%	24名
3月	186	8.5	70.45%	92.08%	76.52%	24名
	延利用者合計	平均利用者数 (1日)	利用率 月平均	稼働率 月平均	登録者率 月平均	
	2377	9.29	77.38%	91.10%	85.00%	

H29年度比 2052名 H30年度比 2248名 H31年度比 2377名 Δ129名
(令和2年3月31日現在) 新規利用者 11名 終結者 13名

*実績に対する分析内容

今年度は、4・5・6・7・8・11・12月に新規利用あり。利用目的は、家族の介護負担の軽減・清潔保持、活動性を持たせたい、認知症の進行に伴い社会性を保持する事が困難になったためとなっている。介護度は要介護1～3内訳として当財団居宅から3件、他事業所から8件となっている。新規利用者11名。

新規利用に関しては、11名中8名の方が新規介護認定を受け、初めて介護サービスを利用されている。介護支援専門員からの相談にて利用、家族希望にて利用、認知症専門医の薦めにて利用。また、新規利用者1名の方の家族が青森県若年認知症総合支援センターに相談し、サービスに繋がった方もいる。

終結者は、13名で身体状況の変化により、他サービス移行、在宅での生活が困難の為、認知症対応型共同生活介護入所、他施設入所、治療目的の入院の為となっている。

上半期は、お盆や体調不良による休みによりキャンセル等もあったが、利用率79.12%と上向き傾向になるも、下半期に関しては体調不良によるキャンセル・急遽短期利用・新型コロナウイルス感染予防の為、利用率が75.65%と低下となっている。年平均77.38%と目標値80%に達していない。利用相談は、結び家の特性を理解している現在利用されている利用者担当の介護支援専門員の件数が多かった。次年度も営業を継続し、安定した稼働率を目指していく。現在利用されている利用者の定期曜日以外での受け入れも検討していく。

【介護区分別】

区分 月	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	月平均
H31 4月			12	7	6			25	1.76
R1年 5月			12	8	6			26	1.76
6月			11	11	6			28	1.82
7月			8	13	5			26	1.88
8月			9	13	5			27	1.85
9月			8	13	5			26	1.88
10月			7	13	5			25	1.92
11月			6	14	5			25	1.96
12月			5	13	8			26	2.11
R2年 1月			5	13	8			26	2.11
2月			5	12	7			24	2.08
3月			5	11	8			24	2.13

年間平均介護度 1.9 (新規利用者 11名 終結者 13名)

2) 在宅生活を支えるための地域・家族交流の実施

月	実施内容
H31/4/1～	八戸シニアはつらつポイント事業でのボランティア受入継続。
7/9～7/11	グッジョブ受け入れ（三条中学校2名）
9/16	上長地区敬老会出席

3) 安定した収入の確保（営業関係）

広報活動：医療機関、居宅介護支援事業所等への広報活動を実施した。利用相談は、結び家の特性を理解している現在利用中の担当介護支援専門員の相談が多かった。

月	実施内容
4月～3月	現在利用中の居宅介護支援事業所へ営業（同居宅からの相談多い為） 実績時に空き情報案内・ホームページにて空き情報案内
10月	市内居宅へ営業
その他	外部研修・会議時の案内・営業

4) 運営推進会議

今年度は、利用の方と食事をして交流していただく良い機会となった。食事も美味しく好評で委員の方の中では他施設と比較する方もいた。

月	実施内容	参加人数
6/26（水）	①H30 年度事業報告 ②手指体操（利用者様が行っている手指体操） ③意見・質疑応答	7名
12/11（水）	①H31 年度上半期事業報告 ②利用者の方と食事会 ③意見・質疑応答	7名

5) 避難訓練の実施

日中火災想定での避難訓練 2 回実施

月	実施内容	参加人数
7/10（水）	日中火災想定での避難訓練	利用者 7名 職員 6名 中学生 2名
9/26（木）	日中火災想定での避難訓練	利用 10名 職員 7名

6) 提供する質の向上目的の利用アンケート実施

実施期間	令和元年 11 月 18 日（月）～12 月 6 日（金）
目的	提供するサービスの質の向上
調査方法	（ご家族様）送迎時、アンケート用紙を手渡し、ご家族様による無記名洗濯記入方式 （ご利用者様）本人様記入及び職員による聞き取り
対象者	令和元年度 11 月 1 日時点で登録されているご利用者様、ご家族様（登録者:28 名（入院・他サービス利用中・私的理由にて欠席者含む）
内容	認知症通所介護 結び家が提供している内容について

※詳細は別紙参照

(2) 相談支援事業

認知症高齢者だけではなく、若年性認知症及び認知症を発症した障害者の相談にも積極的に応じ、適したサービスを利用できるよう情報の提供を行った。他事業所と連携を図り、認知症者本人の豊かな地域生活につながるよう支援を実施した。

月	実施内容		
H31年4月	利用相談 1件	家族相談 0件	利用中止相談 0件
R1年5月	利用相談 4件	家族相談 0件	利用中止相談 0件
6月	利用相談 2件	家族相談 0件	利用中止相談 0件
7月	利用相談 2件	家族相談 0件	利用中止相談 0件
8月	利用相談 0件	家族相談 0件	利用中止相談 0件
9月	利用相談 0件	家族相談 0件	利用中止相談 0件
10月	利用相談 3件	家族相談 0件	利用中止相談 0件
11月	利用相談 2件	家族相談 1件	利用中止相談 0件
12月	利用相談 2件	家族相談 0件	利用中止相談 0件
R2年1月	利用相談 2件	家族相談 0件	利用中止相談 0件
2月	利用相談 1件	家族相談 0件	利用中止相談 0件
3月	利用相談 1件	家族相談 0件	利用中止相談 0件
合計	利用相談 20件		

*介護支援専門員からの相談件数が多いが、相談だけで他サービスや他施設入所等で実際に利用に繋がった方は11名。11名の中で1の方の家族が青森県若年認知症総合支援センターに相談し、サービスに繋がった方もいる。

② 若年性認知症サポートセンターゆえみ事業

1) 若年性認知症者及びその家族を対象としてサロン活動(すこやかサロン結喜)を月1回実施し、本人や家族の交流の場として、仲間作りや家族の精神的負担の軽減を図った。冬期間は参加されていなかったが、遠方の青森市から若年認知症者と家族が参加されている。家族間でのアドバイス、介護経験等を通じての助言や提案等もあり、学ぶことも多く、家族の方からは毎回のサロンが楽しいとの話しが聞かれていた。

月	実施内容	参加人数		
		家族	当事者	合計
H31年 4月13日 (第2土曜日)	当事者:昼食準備/談話/テレビ・音楽鑑賞 家族:ヒバ袋・レジン/キーホルダー制作 / 談話	7名	5名	12名
R1年 5月12日 (第2土曜日)	当事者:昼食準備/談話/テレビ・音楽鑑賞 家族:ヒバ袋・レジン/キーホルダー制作 / 談話	5名	4名	9名
6月8日 (第2土曜日)	当事者:昼食準備/談話/音楽鑑賞・トランプ(神経衰弱) 家族:ヒバ袋/レジン・キーホルダー制作/談話	4名	4名	8名
7月13日 (第2土曜日)	当事者:昼食準備/談話/テレビ・音楽鑑賞 家族:ヒバ袋・レジン/キーホルダー制作/ 談話	7名 (見学者 3名含)	2名	9名

月	実施内容	参加人数		
		家族	当事者	合計
8月24日 (第3土曜日)	当事者:昼食準備/談話/音楽鑑賞・テレビ鑑賞 家族:ヒバ袋/レジン・キーホルダー制作/談話	7名 (見学者 3名含)	2名	9名
9月14日 (第2土曜日)	当事者:昼食準備/談話/音楽鑑賞・テレビ鑑賞 家族:ヒバ袋/レジン・キーホルダー制作/談話	4名	1名	5名
10月12日 (第2土曜日)	大型台風接近の為中止となる			
11月9日 (第2土曜日)	当事者:/談話/音楽鑑賞・テレビ鑑賞 家族:ヒバ袋/レジン・キーホルダー制作/談話 幸楽苑にて昼食	5名	3名	8名
12月14日 (第2土曜日)	当事者:/談話/音楽鑑賞・テレビ鑑賞 家族:ヒバ袋/レジン・キーホルダー制作/しめ縄 作り/談話 弁慶にて昼食	2名	2名	4名
1月11日 (第2土曜日)	当事者:/談話/音楽鑑賞・テレビ鑑賞 家族:ヒバ袋/レジン・キーホルダー制作/談話	3名	2名	5名
2月8日 (第2土曜日)	当事者:/談話/音楽鑑賞・テレビ鑑賞 家族:ヒバ袋/レジン・キーホルダー制作/談話	3名	2名	5名
3月14日 (第2土曜日)	新型コロナウイルス感染予防の為中止			

③スタッフ教育

スタッフの質の向上を図る事で、サービスの質の向上につなげる。伝達能力を身につけられるよう各自担当制にして勉強会を開催した。

月	形態	実施内容
R1 5/11	勉強会	認知症者の支援と基本的姿勢、認知症の基礎知識
5/24	法人研修	接遇について
5/27	外部研修	新任職員研修(森)
7/13	勉強会	食中毒感染予防対策について
9/6	法人研修	苦情への対応と虐待・拘束について
10/27	模擬訓練	行方不明高齢者への対応と捜索について、徘徊模擬訓練
11/9	勉強会	プライバシーの保護について
11/9	勉強会	倫理法令遵守について
11/15	法人研修	成年後見制度と権利擁護について
11/22	外部研修	高齢者支援における転倒予防の視点について(森)
12/1	外部研修	シナプソロジー指導法について(豊間根)
12/14	勉強会	介護予防及要介護進行予防について
12/14	勉強会	ヒヤリハットに伴う事故防止対策・苦情対応について
R2 1/11	勉強会	緊急時・非常災害時の対応について
2/15~16	外部研修	全国若年認知症フォーラム in 三重(金澤/松倉/荒川)
2/21	法人研修	障害者施設の非常時の対応について

◆ケアプランセンター まゆすい

報告担当者 米内 さゆり

【事業報告】

介護を必要とする方が、居宅で適切にサービスを利用できるように介護支援専門員が心身の状況や生活環境、本人及び家族の希望等に沿ってケアプランを作成し様々な介護サービス事業所との連絡・調整を行い、適切なサービスが提供されるよう計画することで、居宅で自立した生活が送れるよう支援することを目的として事業を行った。

【報告項目】

- ①居宅介護支援事業所の運営
- ②サービスマネジメントシステムの確立
- ③介護支援専門員としての人材育成

【報告内容】

- ①居宅介護支援事業所の運営
 - (1) 介護（予防）給付支援サービス
 - 1) 利用実績の管理
 - ケアプランの作成、介護サービス提供事業所等との連絡調整及びサービス等の利用状況の検証を行い半年ごとに計画見直しを行った。

月別ケアプラン作成件数

月	介護度 要支援	要介護 1・2	要介護 3・4・5	合計	新規	終了
4月	24	53	31	108	5	0
5月	22	56	31	109	1	1
6月	24	53	32	109	2	1
7月	24	54	32	110	5	3
8月	26	53	32	111	4	0
9月	29	52	37	118	8	3
10月	32	53	35	120	5	4
11月	32	55	34	121	4	2
12月	31	53	35	119	2	0
1月	29	53	35	117	1	0
2月	30	52	34	116	2	1
3月	32	51	38	121	6	1
合計	335	638	406	1379	45	16

- 2) 利用者に関する支援内容を適切に記録した。

3) 認定調査委託件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
9	8	8	9	8	8	8	7	9	5	7	5
										合計	91

4～12月は認定調査員4名・1～3月は3名で対応

(2) 運営上の透明性の確保と継続性

- 1) 2019年度介護サービス情報報告システム登録し情報発信を行った。
- 2) 在宅介護支援センターや関係機関と連携し新規利用者の獲得に繋がった。

②サービスマネジメントシステムの確立

(1) 利用者・家族の在宅生活の支援

- 1) 利用者が自立した生活を営むことが出来るよう十分な聞き取りを行い利用者のニーズを把握し支援を行った。
- 2) 入院・入所時は情報提供し、退院・退所時は情報を得るよう医療機関・福祉施設等との連携を行うことで利用者の支援を行った。
- 3) 週1回居宅会議を行い利用者の情報を共有し、担当ケアマネが不在時でも対応を行った。

③介護支援専門員としての人材育成

- 1) 介護支援専門員としての資質向上、専門知識、技術向上を図ることでマネジメントの質の向上を図るために、色んな外部研修に参加している。

月	形態	実施内容
5/10	外部研修	ケアプラン点検と実地指導の結果から
5/10・16	勉強会	コーチング研修
5/16	外部研修	保証人について
5/24	法人研修	顧客満足度を高める接客とは
7/8	外部研修	「ごちゃまぜ師」養成研修会
7/12	勉強会	認知症研修 エマニチュードを理解する
7/13	外部研修	課題整理総括表の活用
7/24	外部研修	認定調査員研修会 「模擬審査会と伝わる特記事項の書き方」
7/27	法人研修	一軒の空き家がつくった地域のつながり
9/6	法人研修	苦情への対応と虐待について
9/11	外部研修	介護予防ケアマネジメント等研修会
9/13	外部研修	福祉用具・住宅改修に求められるケアマネジャーのスキル
9/13	外部研修	Aブロック事例学習会
10/8	外部研修	地域連携に向けた装具ノートの活用方法や装具の修理見極めポイント
10/17	外部研修	薬剤師居宅療養管理指導とケアマネジャーとの関わり方
10/19	外部研修	「地域で生きるとは？」 在宅医療と介護について看取りを通して映画ピアから考える

公益事業1 障害者・高齢者・認知症者が安心して暮らせる地域づくり事業
 (1) 障害者・高齢者・認知症者を支援する事業

10/22	外部研修	これからの介護保険 H30年度改正のポイントと次期制度改正にむけた最新動向
10/24	外部研修	包括支援研修会 「高齢者に問題となる精神疾患と対応について」
11/15	外部研修	Aブロック事例学習会 「高齢者虐待について」
11/15	外部研修	高齢者トータルケアを考える
11/15	法人研修	成年後見制度と権利擁護について
11/19	外部研修	「ごちゃまぜ師」フォローアップ研修会
12/4	外部研修	コミュニケーションについて
12/6	外部研修	地域ケア個別会議
12/7	外部研修	課題整理総括表の活用～応用編～
12/10	外部研修	地域ケア個別会議
12/18	外部研修	認知症ケア向上研修
1/15	外部研修	介護記録研修 記録と記憶について
1/25	外部研修	八戸市医療と介護の多職種連携研修会 「今だから知ってほしい各専門職の役割」
2/4	外部研修	介護支援専門員実務研修実習指導者養成研修
2/21	法人研修	障害者施設の非常時災害時の対応について

◆認知症事例検討会

報告担当者 堀 慕子

【報告概要】

認知症になってもその人らしく生活していくために、どのような支援が必要か、またどのような体制が必要か、福祉専門職事例をもとに検証し、認知症者の処遇の向上を目指すことを計画。

【報告項目】

①地域で認知症に携わっている専門職員等と、事例検討会開催を計画。

【報告内容】

①地域で認知症に携わっている専門職員等と事例検討会開催を計画。

今回は、障害者支援から高齢者支援への移行について学ぶために、地域生活支援センター青明舎管理者の森富茂子氏を講師として八戸市内の居宅介護支援事業所、高齢者支援事業所に案内し、支援について検討会を計画していた。

折しも、新型コロナウイルスの被害が拡大し、集団感染予防の策を講じる必要が生じたため、やむなく中止決定となり開催に至らなかった。

予定月日	計画内容	参加施設	参加者数
3月 6日 18:00 ～20:00 → 開催中止	『障害者支援から高齢者支援への移行』 ～障害者施設から高齢者施設への 移行について～ 地域生活支援センター青明舎 管理者・生活相談支援員 森 富茂子氏	—	—

◆ 青森県若年性認知症総合支援センター

報告担当者 勝見綾乃

【報告概要】

若年性認知症に対する認識が不足し、診断される前に症状が進行し社会生活が事実上困難となるケースや、本人やその家族、企業及び医療機関が若年性認知症を知っていても、活用が可能な福祉や雇用の施策があまり知られていないことなどから、経済的な面も含めて本人とその家族の生活が困難になりやすいことが指摘されている。これらの問題を解消し、若年性認知症の一人一人ひとりが、その状態に応じた適切な支援を受けられるようにすることを目的として運営した。

【報告項目】

- ① 若年性認知症総合支援センター事業の運営

【報告内容】

- ① 若年性認知症総合支援センター事業

1) 相談支援事業

若年性認知症の多岐にわたる相談のワンストップ窓口の開設し、訪問、来所相談、電話相談、相談会等にて以下の相談に応じる。

- ・福祉サービスの利用援助に関すること
- ・社会資源を活用するための支援に関すること
- ・社会生活力を高めるための支援に関すること
- ・権利擁護のために必要な援助に関すること

※必要に応じて同行や関係機関との連絡調整を実施。

	通常相談	継続相談	その他	単純問合せ	計
4月	6名		1名		7名
5月	9名				9名
6月	3名			1名	4名
7月	1名		1名	10名	12名
8月	2名		1名		3名
9月	5名		4名		9名
10月	2名		3名		5名
11月	6名		5名		11名
12月			1名		1名
1月	4名				4名
2月	2名				2名
3月	1名				1名
合計	41名	0名	16名	11名	68名

(備考) 通常相談：64歳以下の相談

継続相談：初回相談64歳以下で現65歳以上の相談

その他：18歳未満65歳以上の相談

出張相談会

実施月日	実施内容
7月14日	令和元年度 若年性認知症相談会 in ごしょがわら実施 (五所川原市)
9月20日	令和元年度 若年性認知症相談会 in つがる実施 (つがる市)
11月15日	令和元年度 若年性認知症相談会 in おいらせ実施 (おいらせ町)
11月16日	令和元年度 若年性認知症相談会 in とわだ実施 (十和田市)

2) 若年性認知症自立支援ネットワーク会議の実施

発症初期から高齢期まで本人の状態にあわせた適切な支援が図られるよう、医療・介護・福祉・雇用の関係者が連携する若年性認知症自立支援ネットワークを構築するための会議を開催した。

今年度は会長の退任に伴い新会長の選任を行った。報告では、平成30年度の実績報告と令和元年度の計画について報告している。協議では、過去に対応した事例を元に「就労中に若年性認知症と診断されたその後」について協議を行った。

協議の結果、発症後適した時期に必要な対応を行うこと、そのためには関係機関相互の連携強化が求められるという意見で議案に対しての協議を終了している。

実施月日	実施内容	構成団体（12団体）
10月18日	令和元年度青森県若年性認知症自立支援ネットワーク会議実施 ・報告 平成30年度実績報告 令和元年度実施計画 ・協議内容 就労中に若年性認知症と診断されたその後について協議を行った。	≪学識経験者≫ 青森県立保健大学 准教授 ≪医療≫ 青森県医師会 認知症疾患医療センター ≪介護福祉≫ 青森県介護支援専門員協会 青森県障害者就業・生活支援センター連絡協議会 ≪当事者関係者≫ 認知症の人と家族の会青森県支部 ≪労働施策≫ 青森労働局職業安定部職業対策課 青森障害者職業センター 青森産業保健総合支援センター ≪経済団体≫ 青森県商工会議所連合会 青森県商工会連合会 ≪市町村≫ 青森市高齢者支援課

3) 若年性認知症自立支援ネットワーク研修

若年性認知症の人に対する日常生活上の支援、就労上の支援等のために必要な知識・技術を習得するための研修を実施した。講演では、講師が介護保険事業所から有償ボランティアを可能にした経緯や活動による成果が本人の居場所作りや生きがい作りに繋がった例などをお伝えいただいた。グループワークでは、地域と職種が異なるグループを構成し事例を元に話し合いを行った。

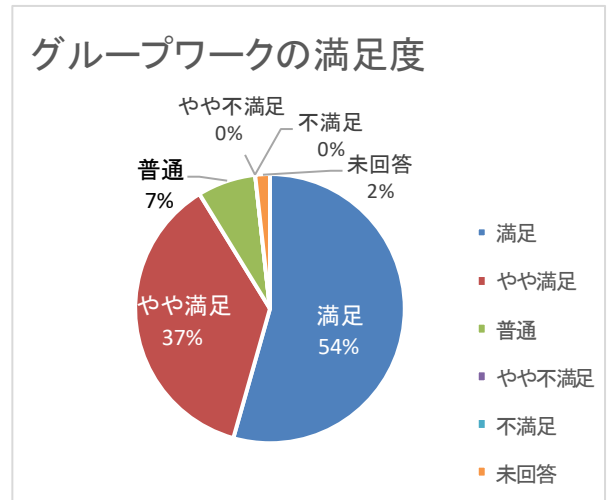
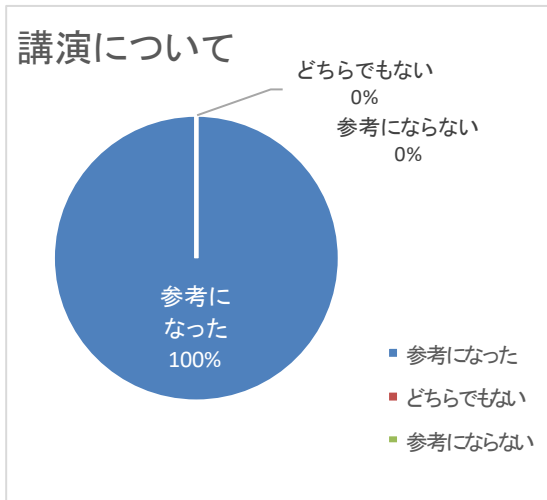
実施月日	実施内容
10月11日	令和元年度青森県若年性認知症自立支援ネットワーク研修実施 講演：つなぐことで社会課題を解決していく方法 講師：前田隆行氏（NPO町田市つながりの開） グループワーク：社会課題を解決していくアクションプラン 進行：松倉典子（青森県若年性認知症総合支援センター） アドバイザー：前田隆行氏

若年性認知症自立支援ネットワーク研修 アンケート結果

《参加者数》 69名

《アンケート回答数》 57名 (回収率 82.6%)

《参加職種》 障害 7% 高齢 72% 医療 5% 行政 14% 一般 2%



講演「つなぐことで社会課題を解決していく方法」の意見・感想（一部抜粋）

- ・「認知症の人を変えるのではなく、社会や私たちが変わる」事が必要。どちらかが我慢するのではなく、障害のある人もない人も楽しく暮らせるよう環境を整える「ちょっとした工夫」を考えてみようと思った。
- ・BLGの取り組みや理念は、今まで既存の社会資源だけで支援を考えていたのが、本人のやりたいことを叶えるために作り出すことの大切さに気付かされた。
- ・デイサービスでレクリエーションを毎日行っているが、ご高齢なため疲れさせてしまうことがよくあり、やらされている感じを受けることもある。周りの（他の）利用者に気をつけている姿もみられる。デイサービスとは、強がる自分ではなく、弱い自分を見せられる素の自分で居続けられる空間を作っていかなければならないと思った。
- ・企業に1年半も通ったと話されていたので根気強いと感心した。「メンバー」の方々が生き生きされていた。認知症になったらもう終わりではないと希望が持てた。

グループワーク「社会課題を解決していくアクションプラン」の意見・感想（一部抜粋）

- ・グループワークの中でも地域交流の場の大切さについて話が出ていた。今後の地域共生の世の中では、地域の力を充実させることが大切だと実感した。
- ・同じ県内でも地域差があること、みなさんの取り組みを聞き自分の意欲向上になった。
- ・本人が何をしたいかをみんなで考え、意見を出し合い実行することはとても大事だと思った。地域の協力が大切。現在働いている事業所でもできることを探し活動していきたいと思う。

◆メンタルヘルスに関する事業

報告担当者 松倉 典子

【報告概要】

メンタルヘルスに関する事業を通して疾病発症を未然に防ぐことで、精神疾患発症の予防・早期発見・再発防止・社会復帰等の支援をする事で、心の健康を保ち、健全な地域づくりを行う事を目的として事業を行った。

【報告項目】

- ①ストレスチェックの実施
- ②メンタルヘルスに関する研修会の開催及び講師の派遣
- ③その他のメンタルヘルスに関する事業

【報告内容】

①ストレスチェックの実施

労働安全法に基づき、ストレスチェックの実施対象となる者並びに企業及び法人等からの依頼により、ストレスチェックを実施した。

実施日	委託者	実施内容
2019年9月	医療法人青仁会	・実施及び集団分析 受検者：140名
2020年3月	社会福祉法人昭壽会	・ストレスチェック実施事前研修 2/20 13:30~15:00 ・実施及び集団分析 受験者：52名 面接指導実施：0名

◆障害者の作品展示

報告担当者 代表理事 松倉典子

【報告概要】

障害者の創作した美術作品を公開する場を設けた。また、その美術作品を通して、地域住民やその他の方に対し、展示作品の説明、紹介を行い、障害への理解・認識を促進するための事業を行った。また、「障害者文化芸術活動に関する実態調査」に関するアンケートを行った。

【報告項目】

- ① 障害者の作品展示
- ② 作品見学会の実施
- ③ 作品の貸し出し
- ④ 障害者文化芸術活動に関する実態調査

【報告内容】

- ① 障害者の作品展示
 - 1) 病気の症状等の現れともいえる作品に触れる機会を設けることで、より多くの人に病気や障害についての理解を深めていただいた。
 - 2) すこやか会館での作品常設展示を実施。

月	実施内容
通年	常設展示

- ② 作品見学会の実施
 - 1) 法人で行う各研修会を利用し、来場者に対して作品紹介・説明等を行なう事で、より障害者への理解を深めていただいた。
 - 2) 事前予約を受付け、見学会を実施。

月	実施内容
7月10日	青森県立保健大学健康科学看護学科 学生6名
7月27日	第1回啓発講演会 参加者18名
9月10日	八戸学院大学健康医療学部看護学科 学生6名
9月28日	第2回啓発講演会 参加者29名

- ③ 作品の貸し出し

平成31年度は作品の貸出は行わなかった。
- ④ 障害者文化芸術活動に関する実態調査
 - 1) 日本精神科病院協会、日本デイケア学会に所属する医療機関を対象に、医療現場での芸術療法がどのように実施されているか、または実施されてきたかを調査。1407の医療機関に送付し、392の医療機関が回答。回収率は28%でした。

アンケート集計

返信数	作業療法室	デイケア	趣味活動	送付数
日本精神科病院協会	279	232	145	1196
日本デイケア学会		76	37	211
合計	279	308	182	1407

Q1 アート活動または手工芸活動の実施

	作業療法室	デイケア	趣味活動
現在実施している	270	287	90
実施していた	1	6	1
実施していない	8	15	91
合計	279	308	182

Q2 おこなわれているアート活動や手工芸活動の種類

《アート活動》

	作業療法室	デイケア	趣味活動
絵画（イラスト絵・コラージュ・ちぎり絵などを含む）	257	257	84
陶芸（焼成しない粘土細工やタイル制作などを含む）	64	97	18
彫刻・塑像	9	12	3
書画（水墨画は絵画でお答えください）	104	100	29
その他のアート活動	29	47	10

その他内訳

ブラバン、切り絵、貼り絵、塗り絵、スクラッチアート、書道、モザイクアート、ボールピックチャー、張り子、デコパージュ、絵手紙、友禅染、草木染、お花紙アート、版画、生け花、粘土

《手工芸活動》

	作業療法室	デイケア	趣味活動
皮細工	132	94	29
紙細工（ペーパークラフト・折り紙細工など）	238	217	58
金属細工（アクセサリー・七宝焼など）	34	51	11
布細工（刺繍・レース編み・織物・パッチワークなど）	216	201	53
木工細工（小物置物・アクセサリーなど）	84	88	15
その他の手工芸	55	66	12

その他内訳

ビーズ手芸、編み物、アイロンビーズ、張り子細工、毛糸手芸、レジンアクセサリー、ネット手芸、マクラメ、タイルモザイク、ハーバリウム、スキルミニギャラリー、さくらほりきりの手工芸キット、藤工芸、エコクラフト、プラモデル、ボンボンクラフト、こぎん刺し、ステンドグラス、パズル、羊毛フェルト、竹細工、消しゴム判子、アロマストーン、アロマクラフト、アクリルたわし、ミサンガ、ハンブ

Q3 活動頻度

《アート活動》

	作業療法室	デイケア	趣味活動
月に1～3回程度	24	89	20
週に1回程度	57	79	26
週に2～4回程度	103	82	20
毎日(週5回程度)	72	23	17

《手工芸活動》

	作業療法室	デイケア	趣味活動
月に1～3回程度	17	68	19
週に1回程度	52	62	18
週に2～4回程度	95	93	23
毎日(週5回程度)	82	39	9

Q4 指導されている方について

	作業療法室	デイケア	趣味活動
指導者はいない(個人で活動している)	22	45	28
作業療法士	260	207	55
作業療法士以外の職員	43	182	29
外部からの専門家(美術教師や画家等の芸術家)	31	63	11
その他	3	21	4

その他内訳

作業療法士助手、各専門家、芸術療法士(絵画、陶芸)、ボランティア、看護師、デイケアスタッフ、公認心理師

Q5 制作した作品の著作権・所有権について

《アート活動》

	作業療法室	デイケア	趣味活動
個人に帰属する。	137	161	55
病院・医院に帰属する。	54	53	12
制作者個人と病院・医院のどちらにも帰属(共有物)	59	59	19
設定しない(どちらの物にも帰属させない)	35	37	9

《手工芸活動》

	作業療法室	デイケア	趣味活動
個人に帰属する。	154	166	51
病院・医院に帰属する。	40	44	9
制作者個人と病院・医院のどちらにも帰属（共有物）	55	61	14
設定しない（どちらの物にも帰属させない）	32	30	9

Q6 作品の保存について

	作業療法室	デイケア	趣味活動
作品は制作者（あるいは家族）に渡している。	195	214	74
作品の一部は病院・医院が保存している。	168	170	32
作品のほとんどは破棄・処理している。	34	28	8
作品は販売して処分している。	17	41	8

Q7 作品の公開について

	作業療法室	デイケア	趣味活動
一般人対象に展示会を開催し、発表している。	22	33	10
関係者対象に展示会などをおこない、発表している。	35	33	10
施設外で行われる公募展や展示会に、応募し発表している。	68	113	20
施設内への掲示・展示などをおこなっている。	193	214	59
公開展示はしていない。	41	26	19

◆障害者・高齢者・認知症者の福祉に関する 研修会、講演会、イベントの開催

報告担当者 代表理事 松倉典子

【報告概要】

障害者や高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、地域住民等の理解や協力を促進するために、イベントや講演会等を実施した。

【報告項目】

- ① 障害者、高齢者、認知症者の地域生活支援に関する研修会を開催し、地域住民、公的機関等との連携、協働による地域福祉のネットワークづくりを推進する。
- ② 高齢者・障害者を支える家族、専門職員、一般の方を対象とした講習会等の実施
- ③ 障害者、高齢者、認知症者への偏見を除去し、地域住民との交流を図るためのイベント等を開催

【報告内容】

①～③共通

障害者、高齢者、認知症者の地域生活支援に関する研修会及び障害者、高齢者を支える家族、専門職員、一般の方を対象とした講演会の実施並びに障害者、高齢者、認知症者への偏見除去・地域交流を図るためのイベント等を開催した。

1) 障害者、高齢者、認知症者を支援するための講座の実施

- ・認知症サポーター養成講座の実施。(キャラバンメイト 3 名登録)

地域住民等への認知症サポーター養成講座を実施。独自開催は田面木小学校のみで、他は八戸市より依頼を受け、講座を実施した。

実施日	講演内容	対象者
4 月 19 日	認知症サポーター養成講座	明治小学校 5 年生 29 名
6 月 22 日	認知症サポーター養成講座	地域住民 12 名
8 月 21 日	認知症サポーター養成講座	八戸西郵便局 30 名
10 月 17 日	認知症サポーター養成講座	田面木小学校 4 年生 26 名

- ・障害や疾病に対する理解促進、障害者の継続した地域生活の為の連携等を目的とした各研修会の実施

障害者サポーター養成講座は地域生活支援センター青明舎の自主開催で、他は依頼を受け実施している

実施日	講演内容	対象者
8 月 23 日 2 月 13 日	障害者サポーター養成講座	光星高等学校専攻科 9 名 八戸学院大学生徒 15 名
1 月 22 日	青森県居住支援協議会 居住支援セミナー	不動産・福祉・行政関係者 30 名

公益事業 1 障害者・高齢者・認知症者が安心して暮らせる地域づくり事業
 (2) 障害者・高齢者・認知症者に関する普及啓発事業

・上十三圏域の障害者就業・生活支援センターとして関係機関からの依頼により講演を実施。

実施日	講演内容	対象者
6月14日	上十三障がい者就労支援連絡会総会 「離職理由から考える障害者雇用」	会員 60 名
10月4日	青森県言語障がい児教育研究大会 第一分科会～経営部会 「障害のある人の就業・生活を支える」	県内各校の校長、園長等 15 名

2) 講演会の開催

実施月日	実施内容	参加者
7月27日	◆講演会 ● 「一軒の空き家がつくった地域のつながり ～こまじいのうち～」 講師 社会福祉法人 文京区社会福祉協議会 駒込地区地域福祉コーディネーター 浦田 愛 様 NPO 法人 居場所コム 代表 秋元 康雄様	一般参加 18名 スタッフ 33名
9月28日	◆講演会 ● 「障害者の存在が健全で安らかな社会をつくる」 講師 東北福祉大学大学院特任教授 阿部 芳久 様	一般参加 29名 スタッフ 36名

3) イベントの開催

実施月日	実施内容	参加者
7月20日	◆すこやか祭り 当法人所有の「すこやか広場」にてすこやか祭りを実施	①当事者45名 ②ボランティア19名 ③地域住民90名 ④ステージ発表者70名
12月22日	◆もちつき大会 田面木公民館を利用したもちつき大会の実施 当法人の活動紹介 地域住民、障害者、高齢者の交流の場の提供 障害者ボランティアによる運営補助	①一般参加100名 ②障害者サポーター3名 ③田面木婦人会5名 ④個人ボランティア5名 (うち学生3名) ⑤障害者ボランティア 11名

4) 認知症フレンドシップクラブ主催の「ラン伴 2019」への参加

実施月日	実施内容
8月17日	主催：認知症フレンドシップクラブ 八戸市（結び家前）～岩手県一戸町 結愛サービス公社 認知症の人と伴に生きる社会を目指し、認知症の人、家族、支援者、一般市民が協力しあい、1つの襷をつなぎながら、ゴールを目指すイベントに参加 担当区間への参加チーム数6 当法人参加人数8名

5) 八戸市主催「認知症フォーラム」への参加

実施月日	実施内容
11月10日	八戸市委託事業 受託先・認知症の人と家族の会 フォーラム企画等に参加 当法人参加人数4名

◆介護予防

報告担当者 代表理事 松倉典子

【報告概要】

地域の方一人ひとりが健康維持について高い意識をもち、仲間づくりをすることで、高齢者の閉じこもりを予防し、要介護状態になることを予防することを目的としていたが、平成31年度において、介護予防教室の依頼はなかった。しかし、市から依頼のあった認知症サポーター養成講座（障害者・高齢者・認知症者の福祉に関する研修会、講演会、イベントの開催で報告）において、予防の重要性について講義内容に組み込んだ。

【報告項目】

- ①地域住民を対象に介護予防に繋がるプログラムを実施

【報告内容】

- ①地域住民を対象に介護予防に繋がるプログラムを実施
 - 1) 地域住民を対象とした介護予防教室の実施はなかったが、認知症サポーター養成講座を含め、機会がある都度、予防の重要性について講義内容に組み込み実施した。

◆成年後見制度の利用に関する支援

報告担当者 代表理事 松倉典子

【報告概要】

個人の尊厳を重視する権利擁護活動において、権利擁護の推進を図ることを目的とし、スタッフの後見人活動を支援した。

【報告項目】

- ① 法人スタッフの権利擁護活動を支援
- ② 成年後見制度利用相談支援

【報告内容】

- ① 法人スタッフの権利擁護活動を支援

「ぱーとなー青森」に所属する法人スタッフ1名の後見活動を支援した。

対象者	実施内容	登記	担当
知的障害者 女性 60歳代	後見事務	H24.12.14	松倉

社会福祉士資格を有する職員に1名が、2019年度に順次基礎研修Ⅱを受講し終了している。基礎研修Ⅲについては今後実施予定。

- ② 成年後見制度利用相談支援

成年後見制度利用に関係する相談を各相談支援機関事業所で受け付け、法人全体で3件の相談があった。

◆もの忘れ検診機器の貸出

報告担当者 松倉 典子

【報告概要】

認知症の早期発見早期受診を目的として、もの忘れ検診機器の貸し出しを行うことで、もの忘れ検診をより普及した。

【報告項目】

- ① タッチパネル式もの忘れ検診機器の貸出
- ② もの忘れ検診機器の点検

【報告内容】

- ① タッチパネル式の物忘れ検診機器を市町村等へ貸出
 延貸出台数：18台（前年度36台）

月	実施内容			
5月	新郷村地域包括支援センター	もの忘れ検診	1日間	2台
7月	大鰐町保健福祉課 地域包括支援係	もの忘れ検診	2日間	2台
10月	六戸町地域包括支援センター	もの忘れ検診	3日間	3台
1月	三八五交通 株式会社	認知症予防事業	1日間	3台

- ② タッチパネル検診機器の点検

月	実施内容
随時	タッチパネル機器とプリンターの点検

◆認知症徘徊 SOS 模擬訓練

報告担当者 小笠原 裕美子

【報告概要】

認知症になっても安心して暮らせるまちにすることが地域住民の目的であり、同じ田面木地区で活動する法人として、地域の方々と共同し徘徊 SOS 模擬訓練を行なった。模擬訓練では捜索と徘徊者への声掛けの仕方を学び、地域住民が見守りの担い手として活躍できることを目指した。

【報告項目】

- ①田面木地区で認知症徘徊 SOS 模擬訓練の実施
- ②田面木地区以外の地区におけるネットワークの事業紹介と啓発活動並びに立ち上げ協力、組織化への支援を実施

【報告内容】

- ①田面木地区で認知症徘徊 SOS 模擬訓練の実施

1) 認知症徘徊 SOS 模擬訓練の実施

田面木地区社会福祉協議会、田面木地区町内会等を中心に、田面木まごころネットワークとして実施計画を立案し打ち合わせを行った。

実施日	実施内容	備考
R 1.6.22	田面木地区社協と事前会議日の調整	-
R 1.7 月	連合町内会長へ事前会議日の調整	-
R 1.7.17	事前会議企画書提出	-
R 1.8.26	田面木まごころネットワーク事前会議開催	参加者 25 名
R 1.9.24	各町内、関係施設、団体へチラシ・ポスターの配布	チラシ 312 枚 ポスター 53 枚
R 1.10.1	取材依頼 (5 社)	-
R 1.10.17	田面木小学校訪問	-
R 1.10.18	田面木婦人会と炊き出しの打合わせ	-
R 1.10.21	モデル徘徊者との事前打合わせ	4 施設
R 1.10.27	認知症徘徊 SOS 模擬訓練実施	参加者 65 名

※当日取材：デーリー東北

2) 認知症サポーター養成講座の実施

実施日	実施内容
R1.10.17	田面木小学校 4 年生対象に認知症サポーター養成講座実施 参加者 26 名

②田面木地区以外の地区におけるネットワークの事業紹介と啓発活動ならびに立ち上げ協力、組織化への支援を実施。

・今年度、他地域への啓発活動や立ち上げ協力等は実施しなかったが、5月に職員3名でおいらせ町にて行われている徘徊模擬訓練の視察を行っている。おいらせ町は、平成25年度に地域包括支援センター職員が田面木まごころネットワークを視察に訪れており、その後同町内にて2年毎に模擬訓練を実施している。田面木での取り組みを参考に、地域住民の意見や独自のアイデアを取り入れ実施されており、今後の当法人での取り組みにも参考となる視察となった。

◆自動販売機等の設置及び不動産貸付事業 及びレストランサービス事業

報告担当者 代表理事 松倉典子

【報告概要】

収益事業で収入を得ることにより、その収益の50パーセントを公益事業へのみなし寄付することで、公益目的事業の運営資金とするために事業を行った。

【報告項目】

- ④ 自動販売機収入
- ⑤ 公衆電話収入
- ⑥ 不動産貸付事業収入
- ⑦ レストランサービス事業収入

【報告内容】

① 自動販売機収入

設置場所	実施内容
八戸市大字田面木字赤坂 14-4 地域生活支援センター青明舎前	<ul style="list-style-type: none"> ・販売機周辺の清掃 ・入金確認

② 公衆電話収入

設置場所	実施内容
八戸市大字田面木字松長根 5-4 グループホーム「あおぞら」内	<ul style="list-style-type: none"> ・集金 ・入金 ・電話機のメンテナンス
八戸市大字田面木字赤坂 35-9 グループホーム「青風荘」内	
八戸市大字田面木字赤坂 35-35 障害者生活訓練施設「青山荘」内	

③ 不動産貸付事業収入

(1) 屋外広告用看板スペース貸出し収入

貸出場所	実施内容
八戸市大字田面木字赤坂 14-4 地域生活支援センター青明舎 建物壁面	<ul style="list-style-type: none"> ・借主（医療法人青仁会）との打合せ ・入金確認

(2) 土地の賃貸借による収入

設置場所	実施内容
八戸市大字田面木字赤坂 22-1	<ul style="list-style-type: none"> ・契約内容の確認打合せ ・入金確認 ・支払確認
八戸市大字田面木字赤坂 22-2	
八戸市大字田面木字赤坂 24-1	
八戸市大字田面木字赤坂 24-2	
八戸市大字田面木字赤坂 24-4	
八戸市大字田面木字赤坂 24-5	

④ レストランサービス事業収入

提供事業所	実施内容
グループホーム 青風荘	<ul style="list-style-type: none"> • 食数確認（毎週金曜日） • 請求書発行（毎月5日） • 入金確認（毎月10日） • 食材の買出し（毎週月・金曜日）
障害者生活訓練施設 青山壮	
グループホーム 南寿の里	